

外国人雇用

受入れ機関通し細則まで決める

「外国人実習生は間に組合などの受け入れ機関を立て、そこを通じ受入れることになっており、その機関との協定のなかで事業者側が負担するべきことなど、細則まで決められます。当社の場合、個人がサラリーマンのなかで負担し、住居事業者側が提供することになっており、会社が寮を用意しています。部屋は、合い部屋に押し込めると住環境が悪く不満が出て問題になるケースがあると聞いていたため、当初からすべて個室です。3年間という長期間です。

ヤマコン社長

佐藤 隆彦氏

「外国人実習生は間に組合から、プライバシーをしっかりと守ってあげることが大事です。移動手段については、残念ながら日本で免許を取ってきないため、会社で1人に1台自転車を提供しています。」

「実習生は入国した時点で当社の正社員になり、雇用関係が成立しますので、保険にもすべて加入しますし、賞金も日本人の待遇に準じています。制約で日本人しかできない作業もあって手当てなどの違いです。同じではありませんが、平均すると月に25万円程度は払っています。」

「外国人実習生に対して最も誤解があるのが、安い労働力」という言葉がよく出ますが、決して安くはないのです。安くしようとすると途中で辞めたり、逃げたりという問題になるのです。当社ではこれまでの十数年間、途中で辞めた人は1人もいません。これは当初交わした雇用契約を守っているからだと思っています。」

「また、重要なのは間に立つ機関です。現地にはいくつか機関があるのですが、なかには曖昧な条件で人を集め、とにかく日本に送って上前をはねるといったプロカー的な組織もあるらしく、その場合、非常に問題が生じやすいと聞きます。信頼できる機関を活用して、それは現地におもむき、自分の目で確認したほうがいいと思います。」

現地におもむき自分の目で確認

「外国人の場合、いちばんの問題は言葉です。ベトナムでも、事前に、ある程度の教育はしてくれませんが、日本語を話せる人はほとんどいません。来日してからの集合教育であじさつ程度まではできるようにし、その後はOJTなのですが、社員もベトナム語を話せません。マニュアルも整備してはいますが、ある程度時間をかかるとはあります。言葉については現在も悩まなからやっています。ただ、非常に意識の高い人たちです。言葉の習得も早いのはたしかです。いまは1期生がいて、2期生、3期生と来ていますので、1期生が2期生に言葉や習慣の違いなどを教えていきます。」